

# Spine Surgery and Related Research (SSRR)

## 第 17 回 (2022 年第 1 回) 編集委員会 議事要録

令和 4 年 4 月 11 日 Web 開催



### 1. 開催概要

令和 4 年 4 月 11 日 Web 開催 (Zoom)

参加委員: 千葉一裕, 平林茂, 山田宏, 折田純久 (委員長), 加藤真介, 川口善治, 高橋寛, 根尾昌志, 長谷川和宏, 橋爪洋, 中嶋秀明, 藤田順之  
杏林舎: 田村, 霧間, 小嶋

### 2. SSRR 報告事項

#### ① 評議員会資料供覧

2022 年 2 月に JSSR に提出した評議員会資料を供覧して、折田委員長より説明

#### ② 杏林舎より報告: 投稿状況, IF 関連情報など

杏林舎からの現状報告: 資料 1-3 (杏林舎提供・割愛) を供覧

##### ● (資料 1) 投稿査読・出版状況について

- ✓ 投稿数は順調に伸びている (特に Review Article、Technical Notes)。直近の採択率は 31.4%。
- ✓ 海外からの投稿数 40%
- ✓ 平均査読日数: 初回まで 14.3 日、採択まで 33 日 (immediate reject の数が増えていることも平均査読日数の減少に寄与)

##### ● (資料 2-1、2-2、2-3) Impact Factor 収載状況

- ✓ 現在 SSRR は、IF は付与されない ESCI (Emerging Sources Citation Index) に収載されている
- ✓ IF 付与の検討対象となる SCI (Science Citation Index) に収載されるためには、高い被引用率の維持と領域の上位 50% に入ること、および継続的な被引用回数が求められる
- ✓ 被引用回数にカウントされるのは、過去 2 年間の掲載論文のみ
- ✓ 現時点での Orthopedics 領域の中央値 IF は 2.362 (まずはこのあたりの暫定 IF を超えていないと SCI へ収載される評価が行われない)
- ✓ 現在の SSRR の暫定 IF は 1.729 であり、2.4 程度を目標値とする

#### IF 獲得に向けた今後の対策案

① 注目されている論文のランキングを紹介: 被引用件数をもとにリストアップし、SSRR ウェブサイトに掲載

#### ② 会員への配信

→ 引用数の高い論文を、last 3 years ranking などとして、SSRR のホームページ上に掲載  
掲載サンプルや費用について杏林舎から今後御提示頂いたうえで進めていく

#### ② 著名な先生への Review Article 執筆依頼

- ✓ 被引用率は Review Article が高い。Original Article については、現在よりも採択率を落として 1 巻への掲載数を減らす (IF 算定の分母は掲載数となるため)。掲載数には Advanced Publication も含まれることから、採択率を落とす必要がある (現在 30%)
- ✓ IRA 依頼の著者候補リストを update する (新委員会発足後)
- ✓ より注目されているトピックスを抽出して、それに準じた著者依頼を行う
- ✓ 現在のガイドライン掲載のシリーズが終了 (2024 年以降?) したら、一定のテーマでの特集を組む方向で著者選定・投稿依頼の準備を進める

#### ④ 新規性、独自性がある論文の掲載

- ✓ 査読スコアシートの導入

Best Paper Award の評価基準と同じ項目を評価項目として設ける。評価は初回査読時のみとする。

- 作成の可否や費用は杏林舎で調べて後日御提示頂く
- ✓ 他誌で引用回数の多い論文を書いている著者を杏林舎がリストアップして、執筆依頼を行う案もある → 必ずしも投稿にはつながらない可能性が指摘された
- ⑤ガイドライン、コロナ特集の周知
- ✓ OPLL ガイドライン号が特集号として排他的に組まれたためか、被引用数が伸びていない
  - 今後のガイドライン特集は、通常の掲載論文と共に掲載し、より曝露回数・注目促進を狙う

### 3. 確認・審議事項

- ① SSRR Paper Award 規定(資料 B.1:次項に修正版を記載)
  - 事前にメール審議を行った内容について、折田委員長より改めて(資料 B-1)を供覧して説明
  - ✓ 初回選考は 2023 年 1 月予定
  - ✓ Best Reviewer Award は現時点で賞金予算は組んではいないが、必要性は低いとの意見で一致(賞状等を付与)
  - ✓ 選考委員会の委員選出(編集委員会内+外部評価委員)については今後検討する
  - ✓ 海外著者が受傷した際の対応方法は、事案が発生した際に検討することとする
- ② 特集号製作状況(資料 3)
  - ✓ 腰椎椎間板ヘルニア(製作中):2022 年発刊予定
  - ✓ 腰部脊柱管狭窄症(査読中):2023 年発刊予定
  - ✓ 頸椎症性脊髄症(査読担当の渡辺雅彦先生に依頼予定):2024 年発刊予定

### 4. その他

- ① 次回会議について  
2022 年 9 月頃
  - ✓ JSSR 総会において新たに編集委員が選出され、メンバーの一部入れ替えが予想される
  - ✓ 今回で退任される平林茂委員、山田宏委員よりご挨拶頂いた